



昨年9月、アンゴラで38年振りの政権交代がありました。新しく就任したロウレンソ大統領は、アンゴラに経済の安定と豊かさを取り戻すべく大きな改革にチャレンジしています。

ロウレンソ大統領が強い政治的意思を持って取り組んでいるのが汚職問題です。アンゴラは約400年に亘るポルトガル植民地支配から独立後27年間で内戦が続き、2002年和平達成後は石油主導の経済により急速な成長を遂げました（04～08年平均約17%）。しかしながら、その影では汚職や腐敗が横行し、一部に富が偏り、国民生活や経済の多角化は蔑ろにされてきました。そして過度に石油に依存しているため、14年以降油価の低迷以来深刻な経済危機に陥っています。アフリカ第2の石油生産国であり、第3の経済力を有しながら、投資環境、ガバナンスは未だ世界最低レベルに位置付けられています。

アンゴラはかつて一大農業輸出国でした（コーヒー、綿花、サイザルなど）。石油以外にもダイヤモンド、鉄鉱石などの鉱物資源が豊富です。1600kmの海岸線を有し漁業資源、観光資源もあります。そのような潜在力をこれまで十分に活かしきれていないのです。ロウレンソ大統領は、経済多角化のためには投資が必要であり、投資環境の改善のためにまずは国際社会の信用を取り戻すことが最優先課題と位置付け、就任直後から果敢な経済外交を展開しています（ダボス会議、国連総会、BRICSなどマルチの会議にも積極的に出席）。

歴史的転換期のアンゴラ 〈強まる日本への期待〉



アウグスト外務大臣と共に

その外交をしっかり支えているのがアウグスト外務大臣です。先のTICAD閣僚会合には、来年のTICAD7にロウレンソ大統領が出席することを想定し、多忙の合間を縫ってチャーター機で訪日、アンゴラの取り組みについて説明すると共に河野外務大臣とも二国間の協力について充実した会談を行いました。ロウレンソ大統領は就任演説において、関係を強化したい国の一つとして日本を挙げ、関係閣僚に対し日本との連携を強化するため様々な分野において具体的成果を早急に挙げるよう指示を出しているのです。

アンゴラが日本を重視している背景には、これまで官民で協力して行った質の高い最先端技術を生かした協力（最近では繊維工場建設、世界初の大西洋横断海底ケーブル敷設など）があります。資金協力、技術協力と人材育成を組み合わせた経済協力も高く評価されています。今後も農業、資源エネルギー、インフラ整備、通信などの分野を中心にオールジャパンの協力が期待されます。